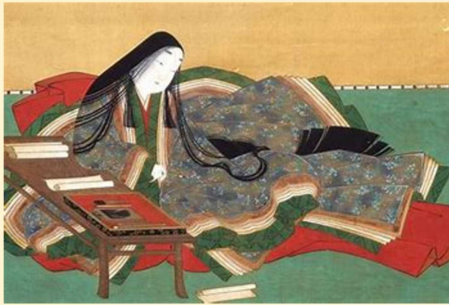


2024.4.20. おもしろ塾 能代市公民館

NHK大河 『光る君へ』を楽しむ

～平安文学、時代考証を視点に
ゆかりの地を巡る～



能代市バレーボール協会会長
自称著述業

近藤 正実

☆スタッフ、参考文献・資料など

作・脚本：大石 静 氏

参考文献：小右記、御堂関白記、権記、紫式部日記、源氏物語
(栄花物語、大鏡)

時代考証：国際日本文化センター教授 倉本一宏 氏

平安時代研究第一人者の歴史学者 御堂関白記、権記、小右記を現代語訳

ドラマのストーリーが独り歩きして、紫式部と道長が実際にもドラマで描かれる
ような人物であったと**誤解**されるのは如何なものかと思う。「紫式部と藤原道長」

風俗考証：立正大学教授 佐多芳彦 氏

歴代NHK大河の風俗考証を担当してきた歴史学者

紫式部日記：京都先端科学大学教授 山本淳子 氏

紫式部日記の現代語訳など著書多数。文学者

平安京創生館 「京都アスニー」

平安京大内裏跡に建つ京都市の施設。平安京1/1000の模型。資料販売

第1章 道長と紫式部の恋は成り立つのか？

(1) 地理的に道長と紫式部が出会う可能性はあったのか？

①二人の家は近かったのか？

出会いは、紫式部の家の裏を流れる鴨川か？

平安京は南北5.2キロ 東西4.5キロ

②散楽をやっていた広場はどこか？

四条万里小路 現在の四条河原町付近

③二人の逢瀬の場所は？

直秀「六条へ行け」 源融の河原院 源氏物語の「なにがしの院」

結論：地理的に二人が出会うことは可能

(2) 道長と紫式部との身分差は恋の障害になるか？

道長の父は、従一位摂政関白太政大臣。その五男（ドラマでは三郎）上級貴族

紫式部の父は、文章生、学者 五位、越前守、越後守 受領階級 中下級貴族

①父兼家の妻たち

正妻 時姫は受領階級の出身

次妻 道綱の母（蜻蛉日記著者）も受領階級の出身

②兄たちの結婚相手は？

道隆

正妻 高階貴子は女官「高内侍」。知性があり漢文が得意。父は学者・受領

道兼

正妻は、いとこ。次妻は叔母で女官

* 源氏物語帚木の巻 雨夜の品定め

成り上がり者も落ちぶれ者もどちらも中流ということになります。そんなあたりからちょっといい女を掘り出すのに、今のご時世は便利ですよ。

結論：大臣の家の男子と受領の娘が結婚する例はある。ただし、正妻は難しい。

(3) 道長と紫式部の関係は？

①紫式部日記に残る手がかり

寛弘5（1008）年 初秋の土御門邸

女郎花を紫式部に差し出す道長

道長と紫式部の歌の贈答

真夜中、紫式部の局の戸を叩く道長

尊卑分脈「御堂関白道長『妾』云々」

瀬戸内寂聴「紫式部が道長を拒む理由は何一つない」

* 男性との仲を書き残す女房たち

枕草子（清少納言）

斉信「夜遅く行くから戸を叩かせないでくれ」

行成 夜中に宮中に帰っていった朝歌が届く。

返歌 「夜をこめ鶏の虚音ははかるともよに逢坂の関はゆるさじ」

和泉式部日記

恋人敦道親王が亡くなって

「すてはてむと思ふさへこそ悲しけれ君に馴れにし我ぞと思へば」

第2章 紫式部の一族に通底する願いとは？

(1) 曾祖父の歌を源氏物語に

藤原兼輔 「みかの原わきて流るる泉川いつ見きとてか恋しかるらむ」

見たことがないのにどうしてこんなに恋しいのか

源氏物語「末摘花の巻」

「かろうじて、明けぬる気色なれば、格子、手づから上げ給ひて、
前の前裁の雪見たまふ。」

ようやく夜が明けたようなので、源氏の君はご自分で格子をお上げになり、
前庭の植え込みの雪を御覧になりました。

* 男性に顔を見せなかった平安王朝の女性たち

(2) 光源氏が政権を握った世の中とは？

源氏物語「乙女の巻」「博士・才人ども、ところ得たり。」

学者や詩文にすぐれた人たちは活躍できる官職に就けるようになったのです。

→これが、紫式部の一族に通底する願い。

(3) 朝服の色にこもる思い

官位等級	*	*	1~2	3~6	7~10	11~14	15~18	19~22	23~26	27~30	31
官位名称	天皇	東宮	親王 王・臣下 一位	王 二~五位 臣下 二~三位	臣下 四位	臣下 五位	臣下 六位	臣下 七位	臣下 八位	臣下 初位	無位
色彩											
色彩名称	白	黄丹	深紫	浅紫	深緋	浅緋	深緑	浅緑	深縹	浅縹	黄

永観2（984）年

為時六位……緑

道長従五位……赤

義懐正三位……紫

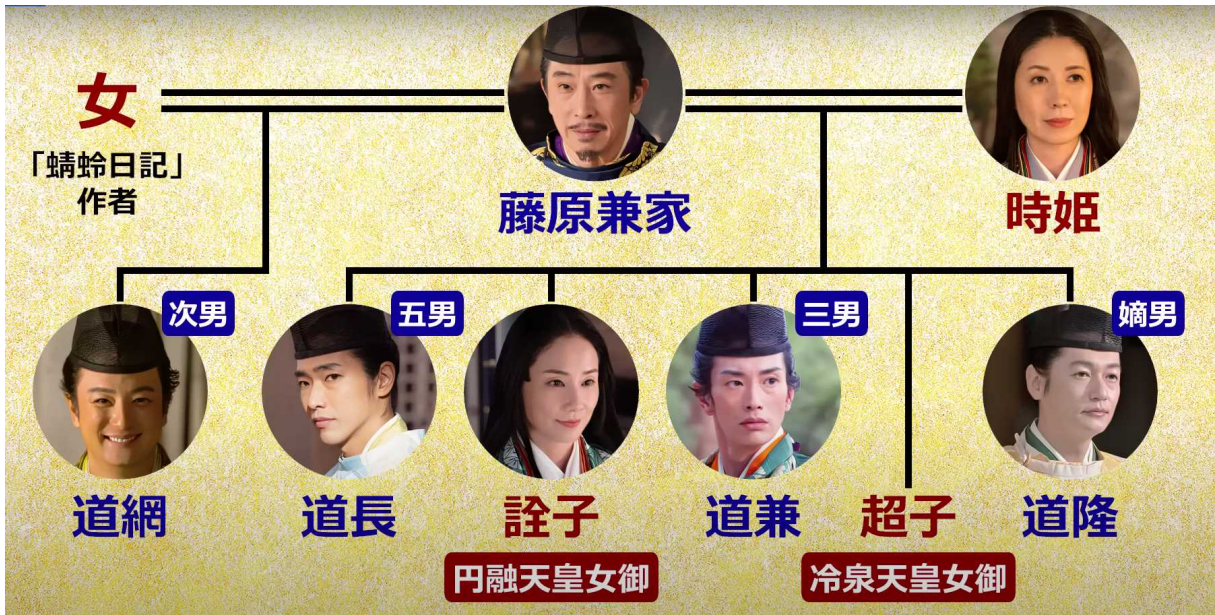
惟茂正五位下……赤

源氏物語 「乙女の巻」

「若君が六位の緑の朝服を召して、宮中にお帰りになるのを大宮は『あんまり、
ひどいなさりようだと』たいそうご不満です」

紫式部の家に蔭位は無い。→緑の朝服を着るコンプレックス

第3章 道長の子と兄弟の関わり？



(1) 詮子

962～1002

円融天皇女御 一条天皇の母 東三条院

「国母専朝事」(小右記)

詮子と道長は東三条院で同居した。

「我御子と聞え給ひて」(御堂関白記)

(2) 道隆 「中関白」

天曆7(953)年～長徳元年(995)

藤原兼家の長男。正二位・摂政・関白・内大臣。中宮定子の父

「お顔立ちも性格も実に優雅で、ご気性はきちんとしていらっしゃる」(栄花物語)

酒好き 糖尿病

百人一首

わすれじの行く末まではかたければ今日をかぎりの命ともがな

儀同三司母

やすらはで寝なましものを小夜更けてかたぶくまでの月を見しかな

赤染衛門

(3) 道兼 「栗田殿」

961年～995年兼家の三男。正二位、関白、右大臣

①道兼は、紫式部の母を殺したのか？

王朝貴族は血の穢れを怖れた

紫式部日記に母のことは書かれていない。

道兼の息子兼隆と紫式部の娘賢子は、一時期夫婦で子どももいた。

(4) 道長の子と兄弟の関わり？

道隆は、長男伊周に関白を継がせようとしてた。

長徳元（九九五）年四月十日 道隆薨去

同年四月二七日 道兼関白の詔

五月八日道兼薨去

大鏡

女院は上の御局に上がり込むと、自ら帝の寝室にお入りになり、泣く泣く説得された。

五月十一日道長に「内覧」宣旨 「あはや、宣旨下りぬ」(大鏡)

結論：道長は詮子の推しと兄たちの死お陰で出世した

第4章 紫式部と道長、どんな結婚生活か？

(1) 紫式部の結婚生活

① 夫、宣孝はどんな人

956? ~ 1001年4月

正五位の下 右衛門権佐、筑前守、山城守

紫式部より17歳ほど年上。すでに子どもがいた

紫式部との間に娘 賢子 大弐三位

② 短い結婚生活

998年? 結婚

999年 賢子を出産

999年11月 宣孝 豊前（大分県）宇佐八幡宮へ出張（奉幣使）

1000年2月 宣孝帰京

1001年正月 為時帰京

1001年4月 宣孝死去

紫式部日記五六段

片つかたに、書ども、わざと置き重ねし人も侍らずなりにし後、手触るる人もことに無し
片側には、漢籍。きちんと重ね置いた夫も亡くなってしまつてからは、手を触れる人も特におりません。

③ 御嶽詣りに派手な服装で行った宣孝（枕草子）

* 御嶽詣り（吉野金峯山参詣）は流行していた。

道長は1007年参詣。

源氏物語、枕草子に「御嶽精進」の様子が描かれている。

(2) 道長の結婚生活

* 倫子は「后がね」

① 道長の源倫子への求婚

父源雅信は、怒る。母穆子は乗り気。

花山天皇は度を超す女好き→倫子は行き場がない。

ドラマの中で花山天皇が説話のように描かれ、それが広く国民の間に浸透してしまうことを恐れている。「敗者たちの平安王朝」（倉本一宏 氏）

道長が手に入れたもの 宇多源氏の血 大きな邸 左大臣の後見

②尻に敷かれた？道長

紫式部日記 「よい夫を持ったなあと思っているとみえる」

大 鏡 倫子6歳のお祝いで道長は歌を贈る

「あれなりし契りは絶えていまさらに心けがしに千代といふらむ」

長年連れ添った契りは決して絶えないものだ。今さらながら未練がましく

「千代までも一緒に」と言ってしまう私だよ

栄花物語 「男子は妻柄なり」 御堂関白記「女方」

③道長には次妻がいた

安和の変で失脚した源高明の娘 明子 高松殿

詮子のすすめで結婚？

兄は、権大納言 源俊賢（四納言の一人）

子どもは、6人ずつ

徹底的に倫子所生の子どもたちを上に扱う。

*光源氏の息子夕霧も子どもが12人

第5章 正妻倫子と紫式部の関係は？

(1) 倫子から紫式部へ

「菊の着せ綿」

(2) 紫式部から倫子へ

源氏物語「桐壺の巻」に倫子の曾祖父「宇多天皇が」登場

結論：倫子と紫式部は互いに尊重し合う関係

第6章 源氏物語はなぜ生まれたのか？

～「源氏物語誕生に枕草子が関わっている」という説～

(1) 清少納言と紫式部

二人の宮仕えの時期はずれている。

定子に仕えた清少納言 彰子に仕えた紫式部

(2) (時はずれているが) ライバル関係の二つのサロン

一条天皇の皇后定子、中宮彰子

定子は1001年出産で崩御。一帝二後の状態は一年弱

定子に集中した寵愛

(3) 定子亡き後の後宮

定子の形代だった御匣殿。定子を忘れられない一条帝

枕草子を読んで定子との日々を思い出す一条帝

一条帝を彰子に引き寄せたい道長

源氏物語で一条帝を引き寄せる作戦 「御堂関白記」「紫式部日記」に残る証拠

一条天皇「この（源氏物語の）作者は実に漢文の才能がある。」
彰子が紫式部に漢文の講義をさせる。
漢文で一条と彰子は近づき、皇子が誕生する。

結論：枕草子に勝つために道長は紫式部に源氏物語を書かせた。

道長は一条帝を彰子に引き寄せ、皇子を得て外戚になるために源氏物語を紫式部に書かせた。

第7章 紫式部、道長の最期

(1) 生涯を振り返った紫式部の歌

紫式部集

いづくとも身をやる方の知られねば憂しとみつつも永らふるかな

どこに身を置くともない我が身ですから、憂いことだと世の中を見ながらもこのように生きながらえてしまいました。

(2) 紫式部の墓に残る伝承

紫式部と小野篁の墓が隣り合わせ

「小野篁は『六道珍皇寺の井戸から冥土に通っていた』とされる人。閻魔大王の補佐をしていました。紫式部は源氏物語で好色な嘘（虚構）を書いたため地獄に落ちます。その紫式部を閻魔大王に顔の利く小野篁が助けたのです。」（京都古典散歩）

(3) 道長の最期

*次々に娘を亡くす。三女寛子・六女嬉子・二女妍子

1027年12月4日 法成寺阿弥陀堂で臨終を迎える。

(4) 死後の道長をたどる

法成寺で臨終→鳥辺野で火葬→木幡で納骨

(5) 道長と紫式部の生涯

栄花物語続編冒頭

光源氏隠れ給ひて、名残もかくやとぞ、さすがにおぼえける

光源氏様が亡くなり、この世は闇になったように、道長様がお亡くなりになった今の世の中も同じく闇に包まれたようだ。

※平安王朝の人々は、道長の生涯を光源氏の生涯に重ね合わせたのかもしれない。

「光る君へ」関係地図

